銀座水族館（七つの海の魚および水産切手）

—33—

三崎出張所　神　原　　勇

マ　イ　ル　カ

分類　鯨目歯鯨亜目マイルカ科（哺乳類）

学名　*Delphinus delphis*

英名　Common dolphin

イルカ類と人間とのかかわりあいは何時の頃からあったであろうか。ノルウェー北部のロイド地方の岩壁には鉄器類の全くなかった石器時代の紀元前約2200年前，現在から数えて約4200年前に多分火打石（当時既に火は使用していた）の鋭い断片で刻みこまれたと思われる，2頭のイルカと1頭のアザラシを1人の男（女ではないであろう）が乗ったがボートで追尾しているさまが画かれている。現存する絵画の中で鯨類を画いたものとしては最古のもので，漁撈していたかどうかの確たる証明はないが，可能性は充分にあったものと推察される。もっと精密に画かれたイルカが同じくノルウェーのスコゲルヴェイン地方の岩壁から発見されている。

分布は英名の Common dolphin の如く大西洋海域では最も普通に見られ，印度洋・太平洋にも分布するが，あまり寒冷なる海域には分布しない。我が国では沖縄から北海道にかけて分布回遊し，九州から沖縄にかけて多く本州海域へ来遊するものは 100頭程度の小群が普通である。沿岸にはあまり近寄らず，他の鯨類に追われて沿岸に大挙来襲捕獲される事がある。伊豆地方の安良里でのイルカ漁は殊に有名である。

マイルカの体形は典型的なイルカ型と呼ばれる完全なる紡錘形で，別名スズメイルカと言われるくらい嘴（クチバシ＝口吻）が細長く突出して目の廻りからの印象では小鳥を思わせる程である。イルカの英名は Dolphin で，魚類のシイラも同じ Dolphin であるので，翻訳のさいには注意する必要がある。マイルカにくらべて嘴があまり突出せず，頭が丸まったメガネスジイルカ（*Stenella styx*）は Porpoise と呼ばれるが，嘴の全くないハナジロカマイルカ（Lagenorhynchus albirostris）は Dolphin であるので，英語の俗名による外形の判断は危険である。

体色は極めて特色的で，背部は暗黒色で腹部は白色であるが背鰭のやや下方で交叉する二つの孤で囲まれた部分はネズミ色又は黄土色となっている。眼の後方には肛門まで延びる二条のネズミ色か黄褐色の線が平行して見られ，アメリカマイルカ（*Delphinvs bairdi*, Pacific dolphin）にはこの線が全く見られず，アフリカの喜望峯付近に生息分布するハセイルカ（*Dolphinvs capensis* Cape dolphin）は一条の線でマイルカより色が淡いので，はっきりと識別される。

イルカ類は漁船やカーフェリーの艏付近で船とたわむれるように泳ぐこともあるので，他の鯨類より一般に馴じみ深いものがある。高速船とも同様に競泳し瞬間速力は30ノットに達するものもあって駆逐艦なみの高速力である。このような高速力は何に起因するのであろうか。魚類の表面を被うヌルヌルとした粘液を溶かした水で粘性を測定すると粘性が減少するので，イルカもこのような高分子物質を体側面の水に溶かしながら泳ぐものとすると，抵抗の少い水の中を泳ぐことになるので小さい馬力で高速力が得られるかもしれない。泳ぐときは体側の表面に沿って流れが生じ体の後半部には渦が出来るので渦による乱流が前進抵抗を急激に増加させる。魚類は鱗が渦の発生を消し去るような役割をはたし，遊泳抵抗を減少させているかもしれない。イルカは体表面に生ずる表皮のシワ（皮膚の凹凸の波）がこの役目をしていることが，二・三の実験により確認されているがまだ定説とはなっていない。

マイルカ

分類：鯨目　歯鯨亜目　マイルカ科（哺乳類）

学名：Delphinus delphis

英名：Common dolphine

全世界ノ温帯カラ熱帯海域ニ分布シ、北アメリカ沿岸ニ生息スルモノハアメリカマイルカ（Delphinus bairdi）、南阿喜望峰近海ノモノハハセイルカ（Delphinus capensis）ト呼称スル。群ヲナシテ沖合ヲ回游スルガ朝ト晩ニ大群ヲ形成スルガ、日中ハ小群デ行動スルト言ワレル。体長2m前後、体形ハ典型的ナ紡錘形デ背鰭ハ中位ノ大キサデ後縁ガ鎌状ニ曲ラズ一見シタトコロ直角三角形トナッテイル。体色ハ背面ハ黒色、腹部ハ白色デ背鰭下方ヨリ孤状ヲナシテイル。食餌ハイワシ、サバ等群集性ノ魚類ノ他、イカ類ヲ捕食スル。伊豆地方デハスジイルカノコトヲマイルカト呼ンデイルヨウニ日本沿岸デハ他ノ種属ノモノヲ混同呼称サレテイル。

サンマリノ　-1966-

ソ連　-1971

北朝鮮　-1961-

ブルガリア　-1961-